

## 2013 年度 入学 試験 問題

# 世界史 B

(試験時間 13:25~14:25 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。

I 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。(30点)

19世紀後半から20世紀初めにかけて、資本主義経済の発達した欧米諸国は、資本の輸出先を求めて植民地拡大政策を推進し、世界は帝国主義の時代に入っていったといわれる。

18世紀後半から産業革命が始まったイギリスに続き、19世紀後半には先進資本主義国、特にアメリカ・ドイツなどで、鉄鋼・電機・化学などの重化学工業が急速に発展した。これは第2次産業革命と呼ばれている。

やがて、自由競争に勝ち残った少数の大企業が相互の競争を避けるために企業の集中を進め、利潤の独占をはかるようになった。このような独占資本が銀行資本と結びついて金融資本が形成され、アメリカ・ドイツをはじめとする主な資本主義諸国は独占資本主義の段階に入った。<sup>①</sup>

しかし、金融資本は、国内だけでは利潤をあげることが難しくなると、国内の余剰資本のより有利な投下先を求めて国外へ進出するようになった。先進資本主義諸国は国内の余剰資本を原料・労働力・市場をもつ植民地などに投資することでより大きな利潤をあげようとし、欧米列強は植民地や従属国を求めてアジア・アフリカなどへの進出をはかった。<sup>②</sup>このような段階に入った資本主義が帝国主義と呼ばれるのである。

他方、アメリカの経済学者クローサーは、国際収支の発展段階を以下のように6段階に分け、一国の経済発展と国際収支構造の変化を関連づける方法を提唱した。クローサーの方法は、植民地や従属国の確保とは無関係に、一国経済の発展段階と国際収支との間の普遍的関係をとらえようとするものといえる。

1) 未成熟の債務国・資本輸入国

経済発展が初期の段階で、産業が未発達であるため、開発に必要な投資財は輸入に頼り、貿易収支およびサービス収支は赤字となる。資本の面からみると国内貯蓄が不十分で投資を賄いきれないため、必要な資本は海外に依存し(資本輸入国)、所得収支(主に投資収益収支)は支払超過(赤字)である。

2) 成熟した債務国・資本輸入国

競争力をもった輸出産業の発達につれ、貿易収支およびサービス収支が黒字化するが、過去の債務の利払が続くために経常収支は赤字が続くことになる。

3) 債務国・資本輸出国および債務国・借入資本返済国

貿易収支およびサービス収支の黒字が増加して所得収支の赤字を上回り、経常収支は黒字となり、資本を輸出するかそれまでの対外債務を返済し始める。

4) 未成熟の債権国・資本輸出国

対外債務の返済が進み对外投资が債務を上回るようになると、所得収支が黒字化し、経常収支黒字はさらに増加する。

5) 成熟した債権国・資本輸出国

賃金の上昇や人口高齢化等から、貿易収支およびサービス収支が再び赤字となるが、過去の投資による所得収支の黒字が続くため、経常収支の黒字は維持される。

6) 債権国・資本輸入国

貿易収支・サービス収支の赤字が拡大し、所得収支の黒字を上回ると、経常収支が赤字となり、対外債権も減少に転じる。

日本の経常収支は1960年代以降黒字基調となり、また円高基調の中、海外投資を積極的に進めたこともあり、日本は目下、世界最大の対外債権国となっている。その一方、かつて世界最大の債権国であったアメリカは1980年代以降経常収支が赤字化し、今や世界最大の対外債務国となっている。また、イギリスは19世紀から20世紀初頭にかけて、大きな経常収支黒字を経験し、さらに世界最大の資本輸出国になるが、その後の経常収支は黒字と赤字を繰り返しながら大きく変動し、資本輸出の規模も変動を繰り返している。

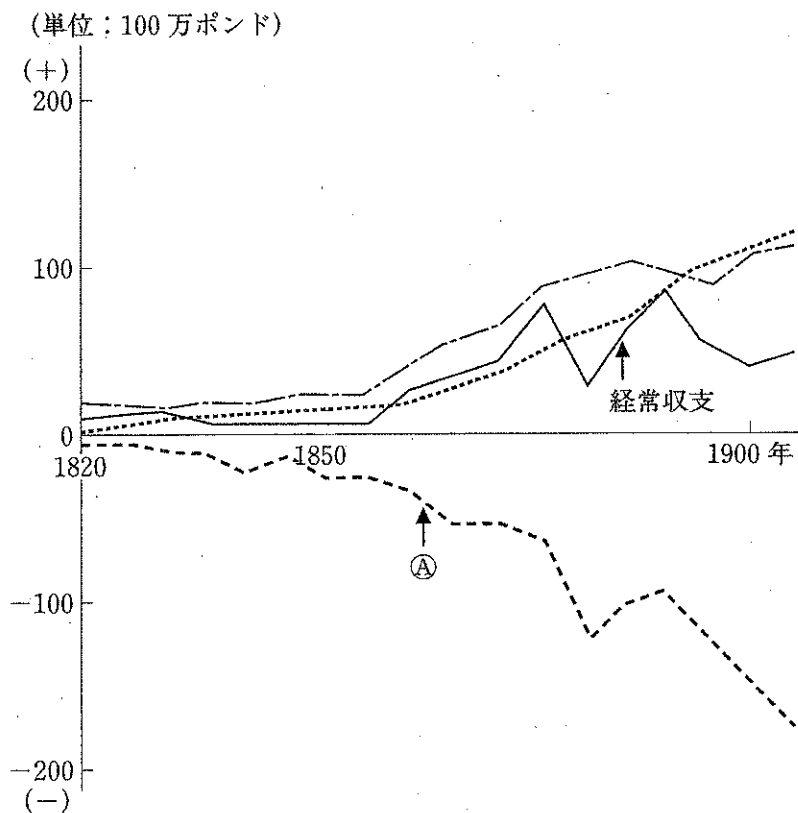
③ 世界で最も早く産業革命が起こったイギリスでは、19世紀前半の経常収支が黒字

化していた。貿易収支についてみると、1830年から1873年までの間に、イギリスの国内産品輸出額は約4000万ポンドから約2億5000万ポンドに、純輸入額は約5000万ポンドから約3億2000万ポンドへと、ともに約6倍に増加した。

④ ヴィクトリア繁栄期 (1851~1873年) の輸出額の3割以上は綿製品で占められ、その輸出額もこの間に2倍以上に増加した。また、同じ時期、イギリスの全輸入額の約2割は原綿によって占められ、その大部分がアメリカからもたらされていた。

ところで、19世紀を通じてイギリスの貿易収支は常に大幅な赤字を計上していた(図1参照)。しかしこの赤字は、海運、海上保険、倉庫業、商業手形割引といったサービス収支の黒字化によって相殺された。イギリスが当時、世界の国際貿易の実務を牛耳っていたためである。さらにこれに海外投資の利子・配当収入が加わって、ヴィクトリア繁栄期のイギリスの経常収支は巨額の黒字を計上していた。

図1 イギリスの国際収支構造



イギリスの海外投資残高は、この20年間に約3倍に増加した。投資先は1850年においては半分以上がヨーロッパであったが、1870年にはヨーロッパとアメリカがそれぞれ総額の4分の1、インドが2割、イギリス自治領と中南米がそれぞれ1割となった。<sup>⑤</sup>

投資対象のほとんどが鉄道関係の債権であり、ロンドンのシティーのマーチャント＝バンカーが、その割引業務を引き受けた。こうして19世紀後半にイギリスは「世界の海運業者」「世界の金融業者」としても君臨し、自らを中心とする国際的分業関係を作り出したのである。

イギリスに遅れて産業革命が起こったアメリカでは、19世紀末には経常収支が黒字、資本収支が赤字となり、資本輸出国の状態に達していた。豊かな国内市場に恵まれたとはいえ、原料生産から最終消費者への販売までを統合した大量生産企業は、自社製品の販売網を進出先に整備する形で輸出を拡大した。とりわけ農業機械、鉄道車両、金銭登録機、タイプライターなど独自技術をもつ企業は、19世紀末から直接投資を積極的に展開したのである。

さらに第一次世界大戦中に対外資産が対外負債を上回る純債権国に転化し、投資収益収支は黒字化する。<sup>⑥</sup>また第二次世界大戦後に、この傾向は一層鮮明になる。世界に占めるアメリカの工業生産は、1938年の36%から1948年には53%へ、また同時期に輸出額では全世界の14%から24%へ上昇した。公的金融保有は1938年に全世界の56%を占めていたが、1948年には75%にもなった。さらに先進16か国のGDP推定値に対してアメリカは、1938年の4割から1950年頃には5割以上を占めるようになった(表1参照)。

表1 GDPシェア (対先進16 国)

(%)

	1870 年	1913 年	1929 年	1938 年	1950 年	1973 年	1989 年
フランス	16.4	9.8	9.1	8.3	6.8	7.5	7.0
ドイツ	8.6	8.9	7.5	9.8	6.5	8.7	7.8
③	5.8	5.0	6.2	7.9	5.1	13.9	16.7
イギリス	21.5	15.3	11.8	13.2	11.1	7.9	6.9
アメリカ	24.5	40.8	46.1	40.7	51.3	41.5	41.0

こうして、イギリスに代わる世界最大の債権国、資本輸出国となったアメリカの支  
 援なしには、ヨーロッパの戦後復興は不可能と思われた。

問1 下線部①に関連して、以下から正しいものを一つ選びなさい。

- ア. ドイツでは、自由貿易の下でクルップやシーメンスなどの独占企業が発達し、19世紀末には工業生産でイギリスを脅かした。
- イ. フランスでは、労働組合が直接行動とゼネストによって社会革命を目指すオポルテュニズムの路線をとり、第三共和政内の反体制派を形成した。
- ウ. 民主党のセオドア=ローズヴェルト大統領は、革新主義（進歩主義）を唱えて国内で大企業の独占を抑えた。
- エ. イギリスでは、漸進的改革を目指すシン=フェイン党を中心として労働代表委員会（20世紀初頭に労働党と改称）が誕生した。
- オ. ドイツ帝国の宰相ビスマルクは、ドイツ社会主義労働者党が結成されると、社会主義者鎮圧法を制定して社会主義勢力を弾圧した。

問2 下線部②に関連して、以下から正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 極東南下政策を進めるドイツに対抗して「光栄ある孤立」を捨てたイギリスは、日英同盟を結んだ。
- イ. イギリスはインド帝国を滅ぼし、3C政策を推進し、アフリカ大陸縦断政策を進めて、世界最大の植民地帝国になった。
- ウ. ウィルソン大統領は、武力干渉による進出よりも経済力による進出を重視する「ドル外交」を推進した。
- エ. ベルリン会議に不満をもつロシアが更新を拒否したため三帝同盟は消滅したが、ビスマルクの説得により復活した。
- オ. イタリアは「アフリカの角」と呼ばれるソマリランドに進出し、さらにコンゴを侵略したが、アドワの戦いで敗れた。

問3 下線部③に関連して、19世紀前半のイギリスにおける自由貿易政策について80字以内で述べなさい。

問4 下線部④に関連して、ヴィクトリア繁栄期のイギリスにおける、民主化政策について60字以内で述べなさい。

問5 下線部⑤への経路を確保する目的もあってディズレーリ首相の時(1875年)にイギリス政府が購入したものは何か。

問6 下線部⑥に関連して、ドイツの首相(のちには外相)としてアメリカと協調して賠償支払いの緩和と資本導入に尽力し、ドイツの国際連盟加盟を実現したのはだれか。

問7 下線部⑦に関連して、国際通貨基金と世界銀行の設立が決められた会議の開催地を答えなさい。

問8 図1の④は何の変動を表しているか述べなさい。

問9 表1の㊸に当てはまる国名を述べなさい。



II 以下の文章を読んで、空欄A～Jに適切な語句を入れなさい。(20点)

第二次世界大戦において、中立政策を維持、もしくは非交戦の状態を守ることができた国々の多くは、国土や国民生活を戦禍から守ることができたが、そのために周辺国や交戦国との間での軋轢に耐えなければならなかった。

アイルランドでは1937年には憲法が公布され、国名は( A )へ変更される。

1939年9月にイギリスはドイツに宣戦布告して第二次世界大戦に突入したが、1940年5月にイギリス首相に就任した( B )は、バトル=オブ=ブリテンを目前に控える6月に、アイルランドのエイモン=デ=ヴァレラ首相に対して「アイルランド統一を原則的にイギリス政府が受け入れる」、「アイルランドはイギリスとともに連合国側で参戦する」などを提案したともいわれるが、史実としては、アイルランドは戦禍に巻き込まれることを避けて「中立」を宣言し、他のイギリス連邦諸国では見られなかった途を選んだ。

もっともアイルランドの中立宣言には「北アイルランドの分裂状態が続く限り」という但し書きがあり、大英帝国への反抗がその趣旨であった。共産主義を嫌う( B )が「敵の敵は味方」と解し、( C )への支援物資供給(レンド=リース)に努めたのと同様の発想がアイルランド政府にあったなら、「中立」宣言どころでは終わらなかったかもしれない。

他方、ドイツがアイルランドに侵攻する可能性も全くなかったわけではなかったようであり、事実、北アイルランドのベルファストのショート=ブラザーズの航空機工場は、ドイツ空軍機の爆撃を受けている。

中立宣言をした国への武力侵攻を行ったのは枢軸国だけではない。アメリカ・イギリスから( C )に支援の軍事物資を提供するレンド=リース協定が結ばれると、物資輸送路としてイランを中立国とは扱えない状況になった。その結果、イギリスと( C )は1941年8月25日イランに武力侵攻し、イランはレンド=リース物資の通過をやむなく認めることになった。

この武力侵攻という事態はイランにとっては一大事であり、侵攻軍がテヘランに

迫ったこともあって、レザー=ハーン（レザー=シャー）は帝位を（ D ）に譲って退去した。イラン政府は、イギリスおよび（ C ）両国と経済支援および終戦後6か月以内の退去を条件に同盟関係を締結し、ドイツに対しては1943年9月9日に宣戦布告を行った。

一連の出来事は戦後の民族運動の原因となり、イギリス系の（ E ）石油会社の国有化を求める声が強まり、1951年に政権についた（ F ）は国有化を実施した。

第二次世界大戦中、南アメリカ諸国を連合側での参戦に踏み切らせていたのは、アメリカが提唱した汎アメリカ運動や南北アメリカ圏防衛の政策であったが、伝統的にイギリスを主要貿易相手国とし、ロラ=ラシマン条約（1933年5月）によって、大恐慌後の（ G ）経済政策にもかかわらず対イギリス輸出を一定割合確保してもらっていたアルゼンチンは、アメリカには同調せず、中立を続けた。

やがて、アルゼンチンではアメリカからの軍事支援の途絶等に不満を抱く軍部がクーデターを起こし、遅ればせながら1945年には、アメリカが提唱してきた南北アメリカ圏防衛を趣旨とするチャプルテペク憲章が米州特別会議で採択され、アルゼンチンもついに南北アメリカ各国と歩みをそろえることになった。書面上の日独への宣戦布告である。

クーデターの過程で民意を味方につけるために、労働者に迎合する政策を乱発した（ H ）は、一時、軍部や資産家層から疎んじられ、失脚するが、1946年には大衆運動によって政治の表舞台に返り咲き、さらにアルゼンチン大統領に就任した。

第二次世界大戦に突入した世界において、ポルトガルの首相（ I ）は、中立維持の政策に努めた。ポルトガルはタングステンを産出し、この資源をめぐって両陣営の板挟み状態になった。ポルトガル国内ではイギリス・フランス・ドイツの資本がタングステン鉱山開発にあっていたが、ノルマンディー上陸作戦が近づくころ、イギリスからドイツ資本の採掘停止を要求されると、この鉱物の採掘作業を全て停止することが決定された。

これが（ I ）の等距離外交であった。これによりポルトガル国内では十万人の鉱山労働者が失業し、200万ポンドもの機会損失を招くことになったといわれる。

一方、西経 30 度付近にあるポルトガル領（ J ）は、シブラルタルとアメリカとを結ぶ連合国側の補給航路の途上にあり、またポルトガル船もしばしばドイツ海軍のUボート等に攻撃されていたため、ポルトガル政府は（ J ）へのイギリス基地の設置を許可した。この措置に対して、枢軸国側が抗議するのはもっともであったが、軍備の貧弱な中立国ポルトガルにしてみれば、中立国船舶への武力攻撃禁止が守られないための自衛措置ということであった。

### Ⅲ 次の文章を読み、設問に答えなさい。(50点)

アナトリアに成立した( A )王国は、都をハットゥシャに置き、インド・ヨーロッパ語族の( A )語を話し、馬に引かせた戦車と鉄製武器を操り、現生人類で最初に鉄を使用したと考えられてきたが、近年、アナトリアのカマン=カレホユック遺跡の前2150～前1950年の地層から鉄器が発見され、鉄の使用は( A )王国よりも四百数十年から六百数十年も早かったことが明らかになった。( A )は民族系統不詳の「海の民」によって滅ぼされたときれてきたが、最近ではエジプトとの抗争のさなかに内紛のため滅んだとも言われている。

ローマ帝国は、東西に分裂し、東ローマ帝国はアナトリアをも支配し、( B )帝国とも呼ばれた。

テュルク人は、普通「トルコ人」と表記されているが、アナトリア半島に入ったのはずっとあとのことであり、紀元前1千年紀にはモンゴリア地域に居住し、遊牧生活を送っていたと見られている。古代モンゴリア地域に居住していた「( C )」(漢字名称)の主力はテュルク人と見られ、冒頓単于のとき、最盛期を迎え、中国地域の山西からタリム盆地までを支配し、中国地域に居住する他の集団と抗争を繰り返していたが、内部対立から東西に分裂した。「東( C )」は、「漢(前趙)」を建て、「西( C )」はモンゴル系ないしテュルク系とされる「柔然」(漢字呼称)に圧迫され、西方に大移動を行ない、ウラル山脈を越えてドナウ川流域に一時期住みついたが、その後、彼らは東方に移動した。彼らは、ヨーロッパ人から「フン」と呼ばれた集団と見られている。

中央アジアは6世紀初頭、柔然が支配していたが、テュルク系の( D ) (漢字呼称)が中国地域の北朝魏(北魏)と連合して柔然を打破し、モンゴリア地域を支配した。( D )もその後、東西に分裂し、8世紀に滅んだ。

中国地域の唐朝と「イスラーム帝国」アッバース朝が戦火を交えていた頃、テュルク

ク人たちはカルルク、キルギス、( E ) という3大集団を形成していた。モンゴリアの( E ) 人、「回紇」(漢字呼称)は東( C )の後継者だったという説もある。( E ) 人は、マニ教を信仰した。モンゴリアの( E ) 王国は840年、キルギス族に侵入され、滅ぼされた。天山周辺に移動した( E ) 人たちは、トルファンを中心に西( E ) 王国を建設し、東トルキスタンに移動した( E ) 人たちはベラサグンを中心にカラ=ハン朝を建てた。モンゴリアは、キタイ(契丹)の支配下に入った。

アラビアでは、イスラーム教が成立し、急速に勢力を広げたのち、アナトリアより東と南の地域は、アラブ人、ペルシア人、テュルク人たちが主役となった。テュルク人たちは、ペルシア系の( F ) 朝と接触し、( F ) 朝の兵士となり、イスラーム化していった。テュルク人たちは、ガズナ朝を建て、別のテュルク系のカラ=ハン朝と対抗したが、その後、カラ=ハン朝と連合し、( F ) 朝を滅ぼした。ガズナ朝の王マフムードは、「アミール」(軍司令官)の称号を得、さらにアッバース朝のカリフから「国家の右腕」の称号を与えられ、みづから「スルタン」と称した。その後、ガズナ朝は別のテュルク系( G ) 朝に攻撃され、アフガニスタン・インド方面に後退した。カラ=ハン朝は、テュルク系の最初のイスラーム王朝となった。

テュルク系のトゥグリル=ベクは、( G ) 朝を建てた。( G ) 朝はイスファハーンを首都とし、ブワイフ朝を倒してバグダードに入城し、アッバース朝カリフから「スルタン」の称号を受けた。スンナ派の( G ) 朝は、東西トルキスタン地域を支配し、さらにシリア地域に進出した。トゥグリル=ベクの子、アルプ=アルスランは( B ) 帝国に遠征し、北はアナトリアに進んだ。( B ) 帝国は、( G ) 朝に敗北した。これが、テュルク人のアナトリア進出の開始となり、今日のトルコ人の起源と見られる。( G ) 朝は、南はエジプト地域シーア派の( H ) 朝と対峙し、マドラサ(学院)を建設した。

( G ) 朝が滅びると、ルーム=( G ) 朝がアナトリアを支配し、農耕・果樹栽培を行なった。その後、第1回十字軍がアジア側に上陸し、以後百数十年にわたる抗争が繰り返された。

モンゴルの( I ) は、ペルシア(イラン)地域に( J ) 国を建て、アナト

リアを攻撃した。

ところで、もっとも古いと見られる文字は、前4千年紀にメソポタミアで作られた楔形文字とエジプトの絵文字から発展した象形文字、つまり（ K ）である。文字は、表音文字と表意文字に大別される。原シナイ文字は、西南アジアで前1600年頃作られ、フェニキア人がそれを発展させたフェニキア文字を地中海沿岸に広め、そこからギリシア文字、アラム文字、南アラビア文字などが派生していった。

アラム文字は、その後、インド地域から中央アジアを経て東北アジア地域一帯の表音文字の母胎となっていった。テュルク系の（ D ）は、アラム文字に由来する（ D ）文字を作り、オルホン碑文を残した。テュルク系の（ E ）は、アラム文字を起源としソグド文字に由来する（ E ）文字を作った。ソグド文字は、（ E ）文字・モンゴル文字・満州（マンジュ）文字の原型となった。

タングート人が建てた（ L ）王朝の李元昊は、（ L ）文字を作らせたが、漢字を変型したものと見られる。（ M ）が建てたヤルルン王朝（漢字呼称「吐蕃」）は、インド系の文字をもとにチベット文字を作った。

表意文字の代表は、漢字であるが、前14世紀には甲骨文字が出現していた。続いて周王朝では金文と呼ばれる字形となり、その後、篆書・隸書などを経て、今日の楷書体が作られた。キタイ（契丹）文字は、大字に漢字、小字に（ E ）文字を用いており、表意文字と表音文字の組み合わせだった。ツングース系（ N ）族は、金国を建て、キタイ（契丹）文字と漢字をもとに（ N ）文字を作った。

問1 空欄A～Nにもっとも適当な用語を下記の語群から選び、解答欄に記入しなさい。

【語群】	アッシリア	アラビア文字	イル=ハン
	ウイグル	オゴタイ=ハン	オスマン
	カナーン文字	キプチャク=ハン	匈奴
	高句麗	サーマーン	シナイ文字
	シュメール	女真	真臘
	西夏	セルジューク	鮮卑
	ソンツェン=ガンボ	チャガタイ=ハン	吐谷渾
	突厥	ハイドゥ	バトゥ
	バビロン	ヒエログリフ	フラグ
	ビザンツ	ヒットライト	ファーティマ
	渤海	ホラズム	ミタンニ
	モンケ		

問2 パンノニアに進入し、フンの最盛期を築き、西ローマのカタラウヌムで敗退した王は、誰であったか。

問3 陳朝のとき、漢字をもとに作られたベトナム文字は、何というか。

問4 朝鮮王朝で作られ、のちにハングルと呼ばれた表音文字は、制定時には何と名づけられたか。

問5 「カリフ」とは、何か。次の内から、正解を選び、記号で解答しなさい。

- ア. アリーの子孫
- イ. 世俗君主
- ウ. ムハンマドの後継者
- エ. 総督

問6 「スルタン」とは、何か。次の内から、正解を選び、記号で解答しなさい。

- ア. アリーの子孫
- イ. 世俗君主
- ウ. ムハンマドの後継者
- エ. 総督

問7 キタイ(契丹)文字(a)、チベット文字(b)、満州(マンジュ)文字(c)、モンゴル文字(d)を成立順にカッコ内の記号で並べなさい。

問8 次の文は、主語に誤りがあるので、正しい名称に書き改めなさい。

- ア. ホンタイシは、満州(マンジュ)文字を作らせた。
- イ. 耶律阿保機は、金国を建てた。
- ウ. チンギス=ハンは、パスパ文字を作らせた。
- エ. 耶律大石は、キタイ(契丹/遼)を建てた。